様式 C-7-2

# 自己評価報告書

平成２１年４月１５日現在

研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2006 年度～2009 年度
課題番号：18560632
研究課題名（和文） 豊臣政権の都市政策として捉えた平入り志向の景観形成に関する研究

研究課題名（英文） Study on Formation of Hira-iri Oriented Townscape as Urban Policy by Toyotomi's Government

研究代表者
宮本雅明（MIYAMOTO Masaaki）
九州大学大学院・芸術工学研究院・教授
研究者番号：80128115

研究分野： 工学
科研費の分科・細目：建築学 建築史・建築意匠
キーワード：平入り町家、妻入り町家、豊臣政権、都市政策、日本海沿岸、北部九州

１．研究計画の概要

(1) 近世都市の成立において重要な役割を果たした豊臣政権が展開した景観レベルの都市政策の実相については、二階建町家の建設や軒高の揃った町家の建設を奨励したことが断片的に知られるのみで、その社会や空間に果たした意味機能は明らかになっていない。

(2)本研究は近世都市に卓越する平入り志向の景観形成が、空間や社会の大規模な再編を目指した豊臣政権の都市政策の一環をなしたという仮説の論証を目指している。具体的には以下の2点について研究を進める。

(3)妻入り志向と平入り志向の町並みの地域分布を遡及的に把握し、近出の遺構資料や文献・絵画史料の再検討を進める。

(4)都市社会から都市空間、日常の生活世界が展開した都市景観までを貫く総合的観点から、近世都市における景観形成と豊臣政権の都市政策の実相に迫る。

２．研究の進捗状況

(1)平成 18 年度

①戦国期に遡る在地系大名支配の都市として陸奥塩竈、豊臣系大名支配の近世都市として豊後森、在地系大名支配の近世都市として肥前神浦を取り上げ、塩竈については都市空間と都市景観の形成過程を遡及的に辿り、二元的社会・空間構造を呈した中世末の都市構造から、一元的社会・空間構造を呈した近世初期の都市構造への転換過程を都市政策と関連づけつつ把握し、後掲研究成果⑤として発表した。森と神浦については、平入り町家の遺構調査を通して、豊臣系毛利氏と在地系松浦氏による平入り志向の都市景観形成の過程について検討を加え、いずれも近世初頭より平入り志向の景観形成が成立したが、神浦では都市政策に加えて立地条件が平入り志向の景観形成を促したことを確認した。

②平入り志向の卓越する豊臣系大名支配地域における妻入り町家の分布状況については、細川氏支配下の丹波・丹後、肥前・肥後、毛利・福島氏支配下の長門・安芸を中心に現地調査を行い、在方に妻入り志向の町家が残存することを確認した。

(2)平成 19 年度

①中世起源の在方町として瓦葺主体の肥前呼子、近世初頭に建設された豊臣系大名支配の城下町として竹瓦葺主体の豊後森、在方町として茅葺主体の長門佐々並を取り上げ、文献史料及び遺構資料の調査を通して、屋根葺材にも着目しつつ検討を加えた。

②従前の調査によって解明されている北部九州地域の平入り志向と妻入り志向の景観形成の諸相について、茅葺町家から瓦葺町家への転換、板葺町家から瓦葺町家への転換、さらに町並みの立地条件に着目しつつ再検討を試み、後者が在方町を中心として妻入り志向の景観形成を促し、前者が城下町を中心として平入り志向の景観形成を促したこと、豊臣政権の関わり深い都市では後者が卓越すること、明治期以降、平入り志向から妻入り志向への転換が生じたこと、平入り志向と妻入り志向の景観形成は多様な展開を見せることを明らかにし、前年度における神浦の研究成果も束ね、後掲研究成果④として発表した。

(3)平成 20 年度

①平成 18、19 年度に調査研究を実施した

肥前呼子、豊後森、長門佐々並について、名護屋城下の影響を受けつつ三類型の町家から成る平入り志向の景観を達成した呼子、竹瓦という得意な屋根材を用いて平入り志向の景観を達成した森、市と宿が果たすべき諸機能に応じて平入り志向の景観を達成した佐々並という、平入り志向の町家形成の多様なメカニズムを明らかにし、後掲研究成果②⑥⑦として発表した。

②北部九州地域の特異な屋根形式であるくど造り町家の平入り志向の景観形成について、筑前青柳を事例として従前の説に批判的検討を加え、17 世紀末期における茅葺き町家が妻入りを起源とすることを確認し、後掲研究成果①として発表した。

③豊臣政権の都市政策については 16～17 世紀における都市の世界史と通有する視点から、空間と社会の同時代史的な再編過程として捉え直し、後掲研究成果③として発表した。

④妻入りと平入りがモザイク状の分布をなす日本海岸の鳥取県と新潟県を中心とした在方町と城下町の実地調査を行い、西日本では平入り志向の景観を達成した城下町においても、近世を通して妻入りの茅葺主体の町並みを形成した例があること、東日本では妻入り志向の景観を達成した板葺主体の町並みの中に、近世初頭に平入り志向の景観を形成した城下町が埋め込まれ、近在の在方町に影響を及ぼした例のあることを確認した。

３．現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

（理由）本研究の眼目は、妻入り志向と平入り志向の町並み形成の歴史的・空間的・景観的背景を豊臣政権の都市政策と関係づけて考察する点にあり、その方法として妻入り町家と平入り町家がモザイク状に分布する地域を取り上げ、①遺構調査に基づく景観形成過程の検討、②既往研究成果の現地踏査による確認と再検討、③これらの調査成果を踏まえつつ豊臣政権の都市政策と平入り志向の景観形成の統括的把握を達成する点にあるが、それぞれ以下の成果を得ている。

①については北部九州地域を取り上げ、豊臣系大名が建設した豊後森、豊臣政権が直轄で建設した名護屋の影響を受けたと見られる肥前呼子を取り上げ、町家建築の遺構調査に基づいて平入り志向の景観形成の実相を把握し、それぞれ研究成果を盛り込んだ報告書を刊行するとともに、成果の一部を学会にて発表した。

②については妻入りから平入りに転じた塩竈、青柳を取り上げたが、既往研究が指摘する妻入りから平入りへの転換では説明し得ない多様な景観形成のプロセスが存在することを確認し、研究目的に向けてより深みのある検討が可能となり、成果の一部を学会にて発表した。

③についてはグローバルな視点から豊臣政権に始まる近世初頭日本の都市政策を捉え直し、都市の世界史と通有する分析視角を構築する可能性を導き出し、その成果の一部を学会にて発表した。

４．今後の研究の推進方策

以上に述べた進展状況のうち、②に関しては北陸地域の補足調査を実施し、③に関しては平入りから妻入りへ、さらに妻入りとも平入りとも捉えられないニュートラルな状況から妻入りへという景観形成における志向性の転換について、豊臣政権の都市政策のみならず、よりグローバルな観点、景観的観点のみならず、技術的な観点も加え、近世日本における妻入りと平入りを巡る景観形成の実相とその形成要因について総括的に検討を加え、研究成果をとりまとめたい。

５．　代表的な研究成果

〔学会発表〕（計 9 件）

① 中野力・宮本雅明「唐津街道青柳宿の景観復原：元禄 5 年『裏糟屋郡青柳町軸帳』再考」（『日本建築学会九州支部研究報告（計画系）』48 号、pp. 725-728、2009 年 3 月）

② 麻生由季・宮本雅明「萩往還佐々並市の空間構成と建築構成：防長市町の形成と機能に関する研究（2)」(『日本建築学会九州支部研究報告（計画系)』48 号、pp. 721-724、2009 年 3 月）

③ 宮本雅明「16～17 世紀日本都市における空間と社会の展開」（日本建築学会大会（中国）建築歴史・意匠部門研究協議会『グローバルな視点からの 16～17 世紀日欧比較都市史研究の可能性』広島大学、2008 年 9 月 19 日）

④ 宮本雅明「日本近世都市における段階的空間形成と都市建築の諸相」(日本建築学会都市史小委員会シンポジウム『都市と建築シリーズ―個と全体』建築会館、2007 年 12 月 19 日）

⑤ 深田和裕･宮本雅明「中近世移行期の塩竈における都市空間の展開過程」(『日本建築学会大会学術講演梗概集（九州）』pp. 301-302、2007 年 8 月）

〔図書〕（計 4 件）

⑥ 宮本雅明・大峯美穂・他『港町呼子―唐津市呼子町伝統的町並み調査報告書』(呼子町文化連盟、印刷中、2009 年 3 月）

⑦ 宮本雅明・大森洋子･赤松有希『豊後森城下町―玖珠町森城下町伝統的町並み保存対策調査報告』(94pp.、大分県玖珠町教育委員会、2008 年 3 月）